

岡山県感染症週報 2013 年 第 28 週 (7 月 8 日～7 月 14 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年 第 28 週 (7/8～7/14) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 27 週	2 類感染症	結核	1 名 (40 代 男)
	5 類感染症	アメーバ赤痢	1 名 (50 代 男)
		ウイルス性肝炎	1 名 (30 代 女)
第 28 週	2 類感染症	結核	1 名 (20 代 男)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3 名
		(O157: 幼児 女 1 名・男 1 名、O165: 30 代 女 1 名)	
	4 類感染症	重症熱性血小板減少症候群	1 名 (80 代 女)

■定点把握感染症発生状況

- 手足口病は、県全体で 334 名 (定点あたり 3.87 → 6.19 人) の報告があり、9 週連続で増加しました。岡山市 (定点あたり 9.14 人) と備北地域 (定点あたり 5.75 人) で、新たに発生レベル 3 となり、県下全体の発生レベルが 3 になりました。
- ヘルパンギーナは、県全体で 298 名 (定点あたり 4.91 → 5.52 人) の報告があり、7 週連続で増加しました。

1. [重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) の発生がありました。岡山県では初めての感染確認です。SFTS、日本紅斑熱、つつが虫病などのダニ媒介性感染症は、病原体を媒介するダニ類の活動が活発になるこれからのシーズンには、特に注意が必要です。草むらなどに入るときには、長袖・長ズボン・手袋等を着用し、服の上から虫除けスプレーを噴霧するなど、ダニに刺されないように注意しましょう。SFTS について、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ「[【注意!】岡山県内で『重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)』の発生がありました。】](#)」を、ダニ媒介性の感染症について、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ「[ダニが媒介する感染症に注意しましょう](#)」をご覧ください。
2. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第 28 週に 3 名の報告があり、第 28 週までの累計報告数が 30 名となりました。岡山県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。例年 7 月、8 月は 1 年のうちで最も発生が多くなることから、今後も更なる注意が必要です。手洗い等を徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
3. [風しん](#)は、第 28 週の発生報告はありませんでした。第 15 週から 13 週連続で発生報告が続いていましたが、約 3 ヶ月ぶりに、発生報告数が 0 となりました。岡山県の第 28 週までの報告累計は 71 名となっています。全国の第 27 週までの累計報告数は、昨年同時期の約 19 倍となる 12,469 名で、全国的には依然、多数の患者が発生しています。詳しくは『[風しん情報](#)』をご覧ください。
4. [手足口病](#)は、県全体で 334 名 (定点あたり 3.87 → 6.19 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。岡山市 (9.14 人) と備北地域 (5.75 人) で、定点あたり報告数が 5 人を超えたため、新たに発生レベル 3 となり、県下全体の発生レベルが 3 になりました。美作地域、真庭地域、倉敷市、備中地域では、ひきつづき、発生レベル 3 で推移しています。詳しくは、『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
5. [ヘルパンギーナ](#)は、県全体で 298 名 (定点あたり 4.91 → 5.52 人) の報告があり、第 22 週から 7 週連続で増加しています。岡山市、倉敷市では、ひきつづき、発生レベル 3 で推移しています。詳しくは、『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。

【お知らせ】

- 夏休み期間中に海外へ渡航される方向けの感染症情報が厚生労働省のホームページからご覧いただけます。
 - ・厚生労働省「[夏休み期間中における海外での感染症予防について](#)」
 - ・厚生労働省検疫所「[夏休みに海外へ渡航される皆さまへ](#)」

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↙	★
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★
感染性胃腸炎	↘	★★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★★★★	伝染性紅斑	↓	★
突発性発疹	↗	★★	百日咳	↗	
ヘルパンギーナ	↗	★★★★	流行性耳下腺炎	↘	★
急性出血性結膜炎	↗		流行性角結膜炎	↗	★
細菌性髄膜炎	↗		無菌性髄膜炎	↗	
マイコプラズマ肺炎	↓	★	クラミジア肺炎	↗	

【記号の説明】 前週からの推移:

↓ : 2倍以上の減少

↘ : 1.1~2倍未満の減少

↗ : 1.1未満の増減

↗ : 1.1~2倍未満の増加

↑ : 2倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし

★: 僅か

★★: 少し

★★★: やや多い

★★★★: 多い

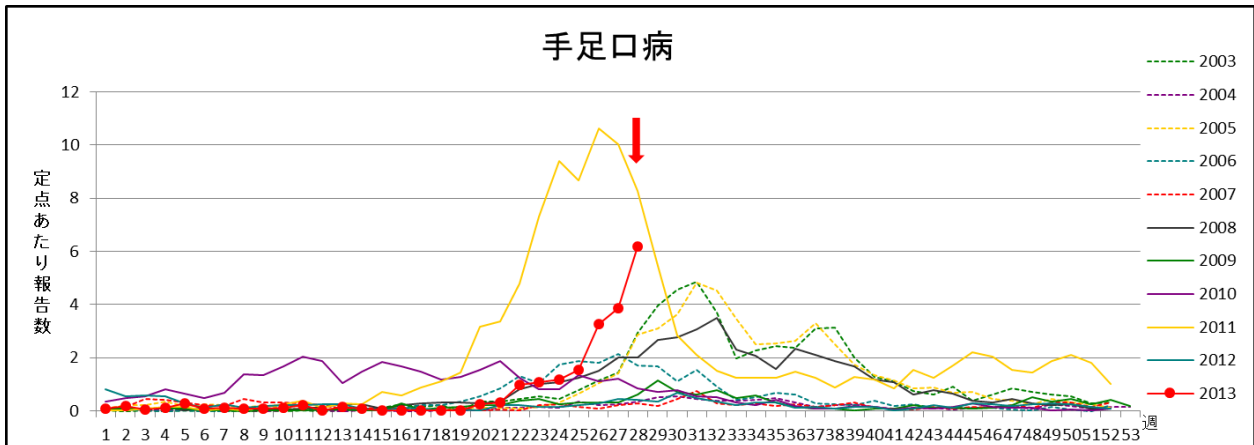
★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. 手足口病

岡山県の発生状況グラフ



手足口病感染症マップ 2013年 28週

手足口病は、県全体で334名（定点あたり3.87 → 6.19人）の報告があり、前週より大きく増加しました。地域別では、岡山市（9.14人）、美作地域（8.83人）の順で、定点あたり報告数が多くなっています。岡山市と備北地域（5.75人）で、定点あたり報告数が5人を超えたため、新たに発生レベル3となり、備前地域を除く全ての地域で、発生レベル3となりました。例年、7月～8月頃に流行のピークを迎えますが、岡山県の過去10年の発生状況と比較すると、大流行となった2011年に次いで、患者が増加し始める時期が早く、報告数も多くなっています。ひきつづき県内の発生状況に注意してください。



全県レベル3

レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
5	2	0< 5未満	0

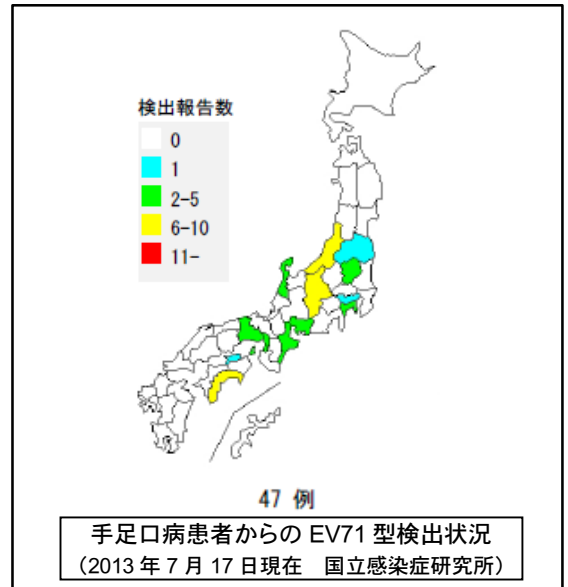
レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

全国の第27週の発生状況は、定点当たり4.73人で、大分県(17.19人)、鳥取県(13.42人)、山口県(12.96人)など、九州地方や中国地方で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県全体の定点あたり報告数に対し、周辺県での定点あたり報告数が数倍高い状況となっていますので、今後の県内の発生状況にも注意が必要です。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。

全国で今年、7月17日までに報告された手足口病からの検出ウイルスは、コクサッキーウイルスA6型(CA6:49%)が最も多く、次いで、エンテロウイルス71型(EV71:20%)が多くなっています。

地域別に見ると、本州の近畿地方から東側および四国地方でEV71型が検出されています。

[\(国立感染症研究所\)](#)



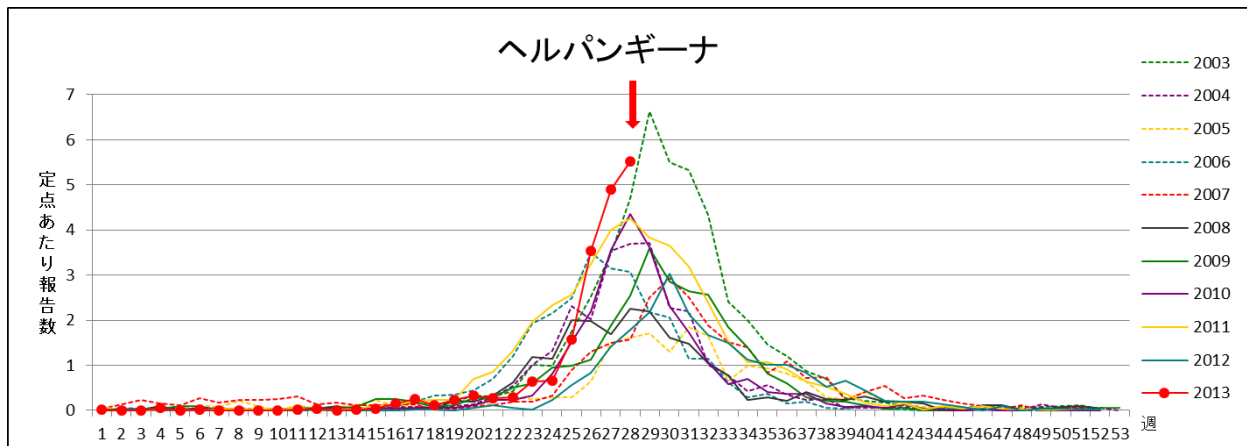
【手足口病とは】

夏に幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスにより、経口感染します。症状は、3～5日の潜伏期の後、軽度の発熱とともに、口腔粘膜、手掌、足底や足背に2～3mmの水疱性発疹が出現するのが特徴です。3～7日で水疱が消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行すること等が、有効な感染予防になります。

2. ヘルパンギーナ

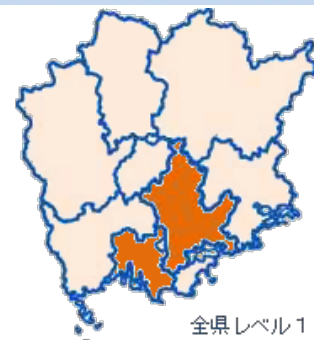
岡山県の発生状況グラフ



ヘルパンギーナは、県全体で298名(定点あたり4.91 → 5.52人)の報告があり、第22週から7週連続で増加しています。地域別では、岡山市(10.93人)、倉敷市(6.18人)、備北地域(5.50人)の順で、定点あたり報告数が多くなっています。岡山市、倉敷市では、ひきつづき、発生レベル3で推移しています。

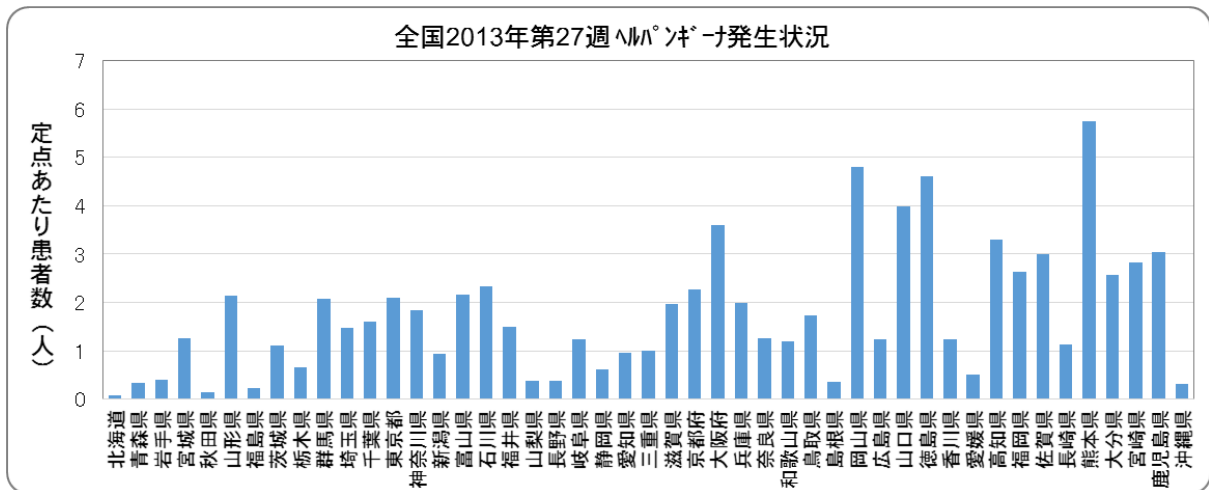
全国の第27週の発生状況は、定点あたり1.78人で、熊本県(5.74人)、岡山県(4.80人)、徳島県(4.61人)の順で定点あたり報告数が高くなっています。岡山県は熊本県に次いで、定点あたり報告数が多くなっており、現在が発生のピークと考えられますので、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。

ヘルパンギーナ感染症マップ 2013年28週



レベル3		レベル1		報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	
6	2	0< 6未満	0	

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



【ヘルパンギーナとは】

夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。A群コクサッキーウイルスなどが原因となります。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスにより、経口感染します。症状は、突然の発熱につづいて、のどが痛くなり、軟口蓋（口腔内の上側奥の柔らかい部分）に直径1～5mmほどの赤い小水疱が多数出現するのが特徴です。通常、2～4日で軽快し、予後は良好な疾患ですが、発熱時の熱性けいれんや、髄膜炎を伴うことがあります。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたりウイルスが排出されることもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行すること等が、有効な感染予防になります。

○手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が増加しています。

どちらの感染症も、ウイルスに対する特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。また、口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、小さな子供では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながる場合がありますので、注意が必要です。

○保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがい・手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。

○体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

風しん情報

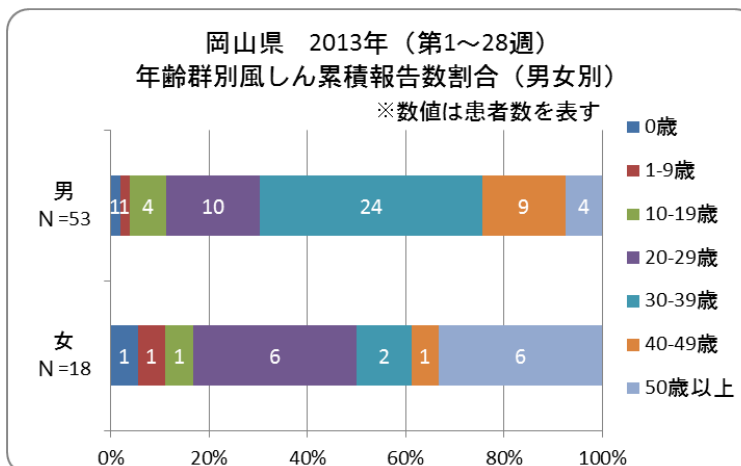
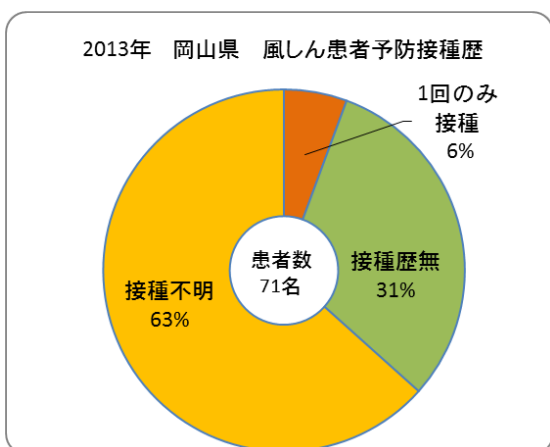
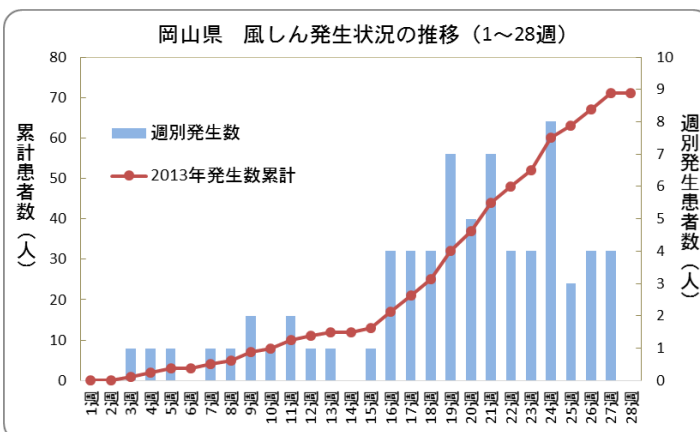
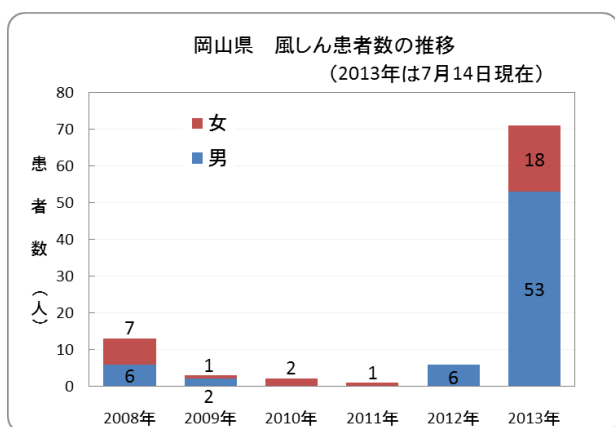
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年は、関東地方・近畿地方を中心に多数の患者が発生しています。風しんはせき、くしゃみ等の飛沫により感染します。また、夏休みに入るこれからの時期は、旅行などで人の移動も多くなり、感染の機会が増加します。全身性の発しん、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性がありますので早めに医療機関を受診してください。

[\(国立感染症研究所 風しん Q&A\)](#)

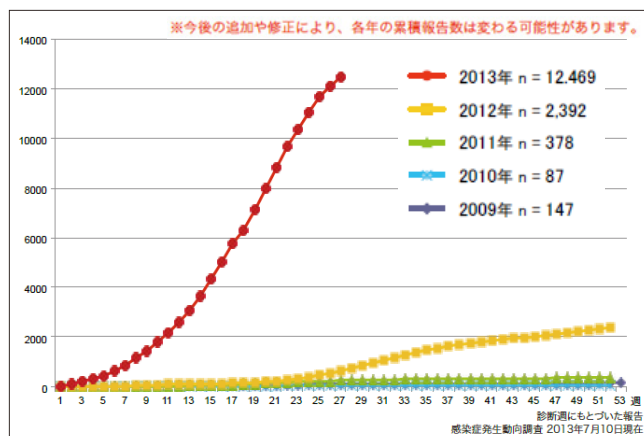
【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、第28週の発生報告はありませんでした。第15週から13週連続で発生報告が続いていましたが、約3ヶ月ぶりに、発生報告数が0となりました。岡山県の第28週までの報告累計は71名となっています。患者は、全国集計同様20~30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが22名、接種不明が45名、1回のみ接種が4名でした。



【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第27週までの累計報告数は12,469名であり、関東地方・近畿地方を中心に、多数の患者が発生しています。患者の約8割は男性で、そのうち20~40代が82%を占めています。また女性は、20~30代が57%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかったか、集団接種から個別接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。また、妊婦が風しんにかかり、胎児に障がいが発生する先天性風しん症候群 (CRS) は、2012年は5名でしたが、2013年は6月26日までに、すでに7名の発生がありました。



全国風しん累積報告数の推移 2009~2013年 (第1~27週)
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの定期予防接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受ける場合は、麻しんの対策も考慮し、麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）を接種することが推奨されています。任意の予防接種者数が、例年に比べて急激に増加したため、今夏以降にMRワクチンが一時的に不足することが懸念されています。MRワクチン安定供給の目途がつくまでの間、任意の予防接種について、

①妊婦の周囲の方

②妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方

①②の方で、「抗体価が十分であると確認できた方」以外の方が、優先して接種を実施できるよう、ご協力をお願いいたします。

[おかやま医療情報ネット](#)から、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種のご予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2013年 28週 (2013/07/08～2013/07/14)

2013年7月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3	0.04	-	-	3	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	0.13	4	0.29	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	0.69	27	1.93	5	0.45	1	0.10	1	0.14	-	-	1	0.50	2	0.33
感染性胃腸炎	222	4.11	54	3.86	61	5.55	51	5.10	8	1.14	22	5.50	5	2.50	21	3.50
水痘	49	0.91	15	1.07	7	0.64	6	0.60	5	0.71	1	0.25	2	1.00	13	2.17
手足口病	334	6.19	128	9.14	66	6.00	29	2.90	23	3.29	23	5.75	12	6.00	53	8.83
伝染性紅斑	2	0.04	-	-	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	27	0.50	15	1.07	7	0.64	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	298	5.52	153	10.93	68	6.18	12	1.20	20	2.86	22	5.50	5	2.50	18	3.00
流行性耳下腺炎	11	0.20	2	0.14	3	0.27	6	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 28週 (2013/07/08～2013/07/14)

2013年7月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3	0.04	-	-	3	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	0.13	4	0.29	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	0.69	27	1.93	5	0.45	1	0.10	1	0.14	-	-	1	0.50	2	0.33
感染性胃腸炎	222	4.11	54	3.86	61	5.55	51	5.10	8	1.14	22	5.50	5	2.50	21	3.50
水痘	49	0.91	15	1.07	7	0.64	6	0.60	5	0.71	1	0.25	2	1.00	13	2.17
手足口病	334	6.19	128	9.14	66	6.00	29	2.90	23	3.29	23	5.75	12	6.00	53	8.83
伝染性紅斑	2	0.04	-	-	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	298	5.52	153	10.93	68	6.18	12	1.20	20	2.86	22	5.50	5	2.50	18	3.00
流行性耳下腺炎	11	0.20	2	0.14	3	0.27	6	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。
今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第28週 2013/07/08～2013/07/14)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	3	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

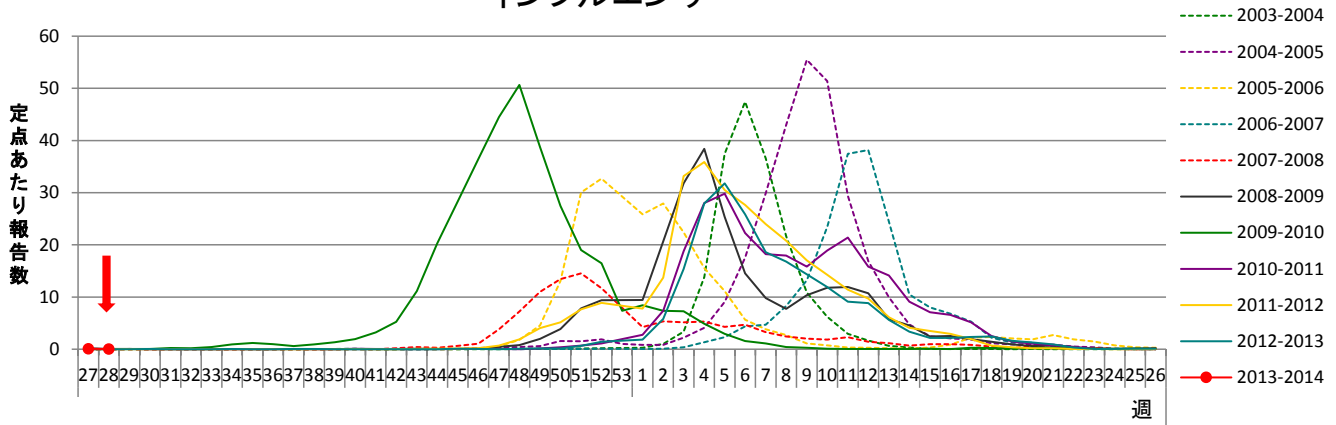
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	7	1	1	1	-	1	-	1	1	1	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	1	-	2	2	3	10	4	3	4	1	5	-	2	
感染性胃腸炎	222	5	19	36	11	13	17	19	15	9	10	8	21	3	36
水痘	49	-	12	7	11	5	4	5	1	-	2	-	1	-	1
手足口病	334	2	41	121	86	23	24	22	6	1	2	-	2	-	4
伝染性紅斑	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
突発性発疹	27	3	17	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	298	5	31	72	49	38	41	33	11	2	6	4	3	-	3
流行性耳下腺炎	11	-	-	-	-	-	1	1	2	3	1	1	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-

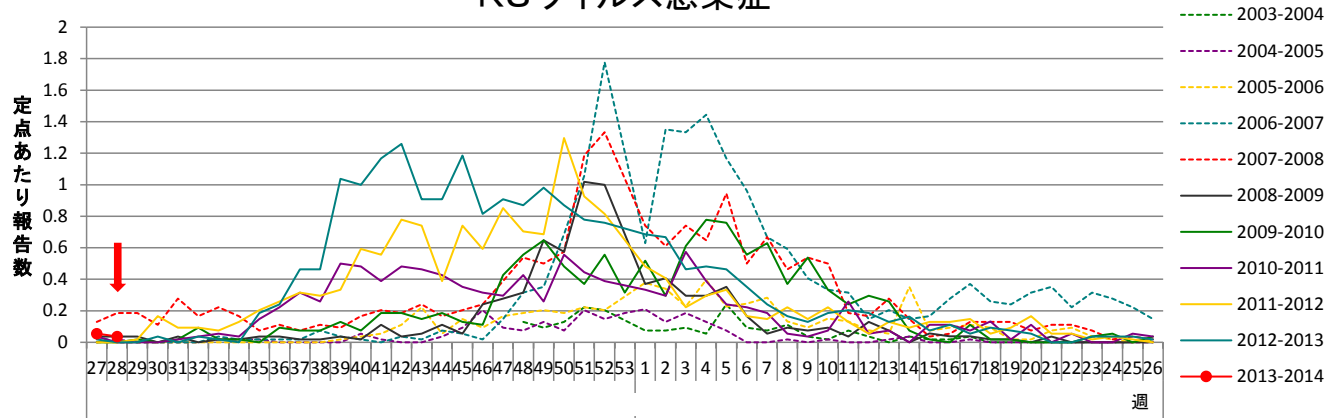
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

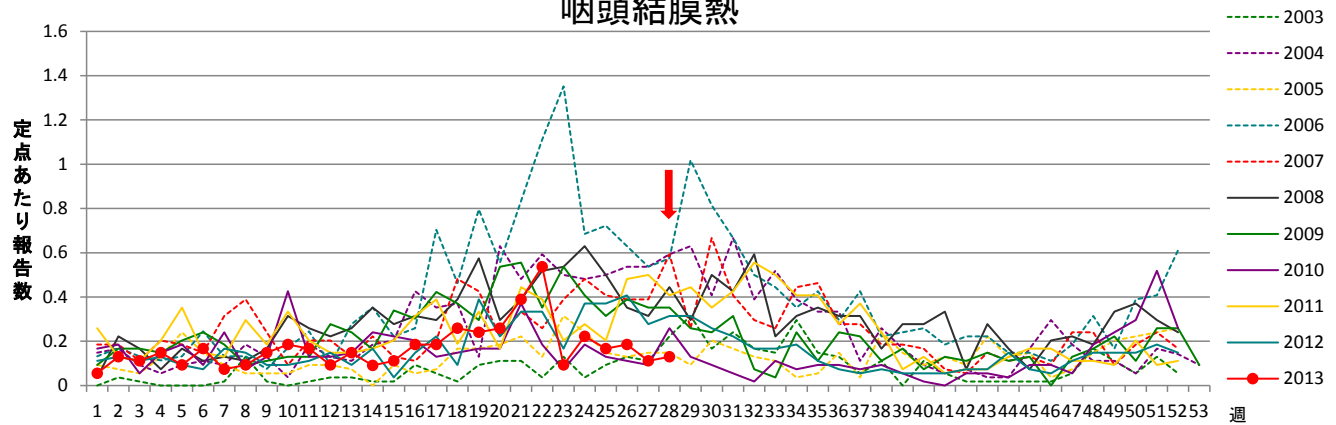
インフルエンザ



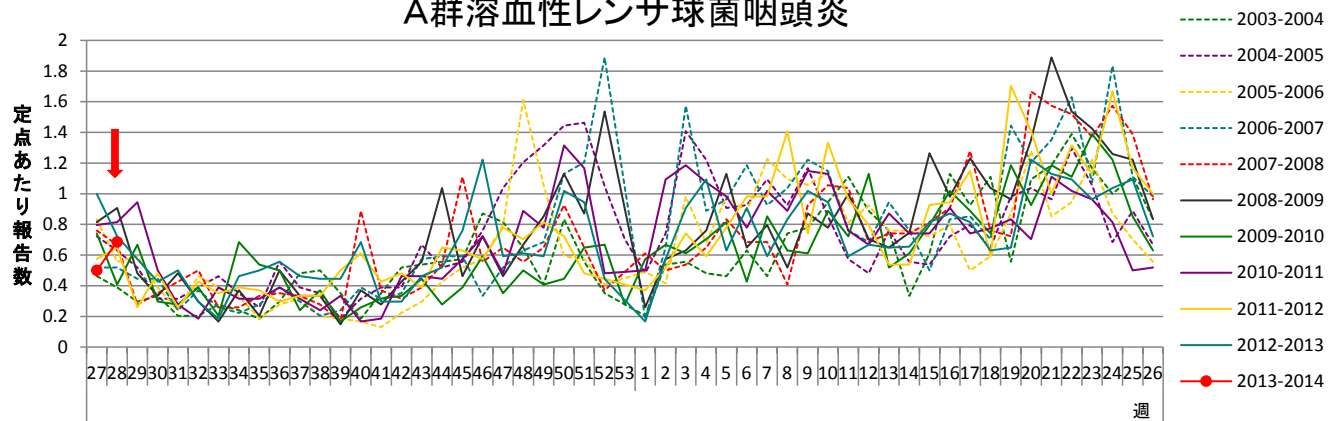
RSウイルス感染症



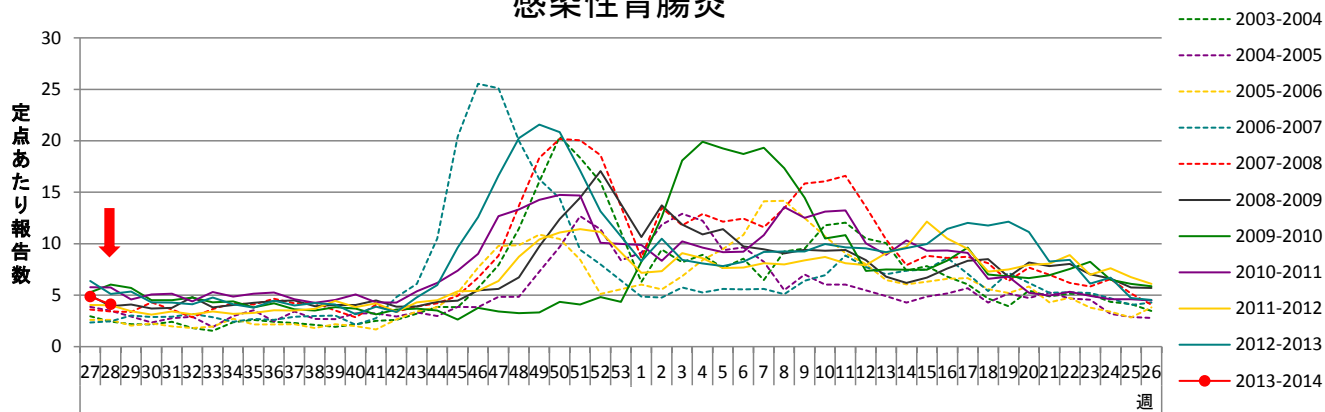
咽頭結膜熱



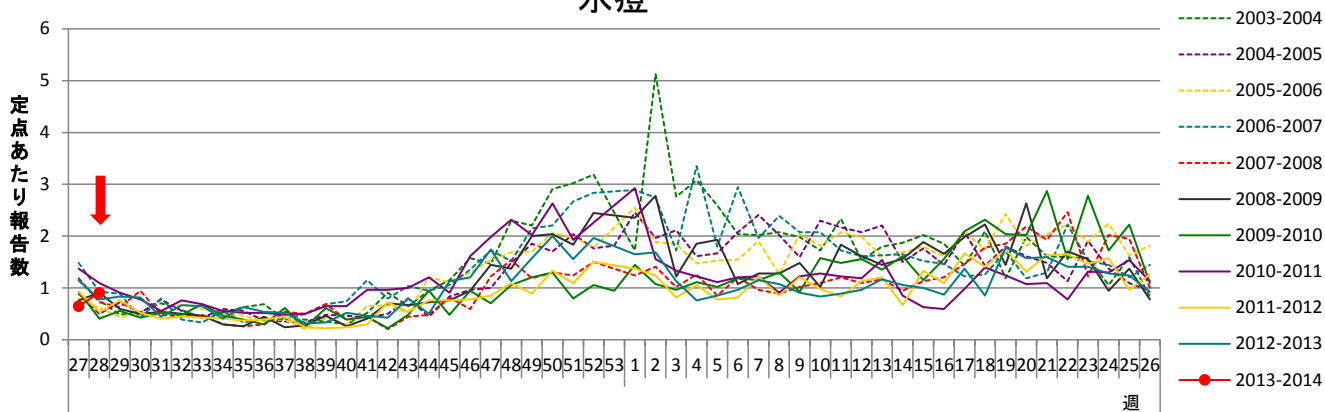
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



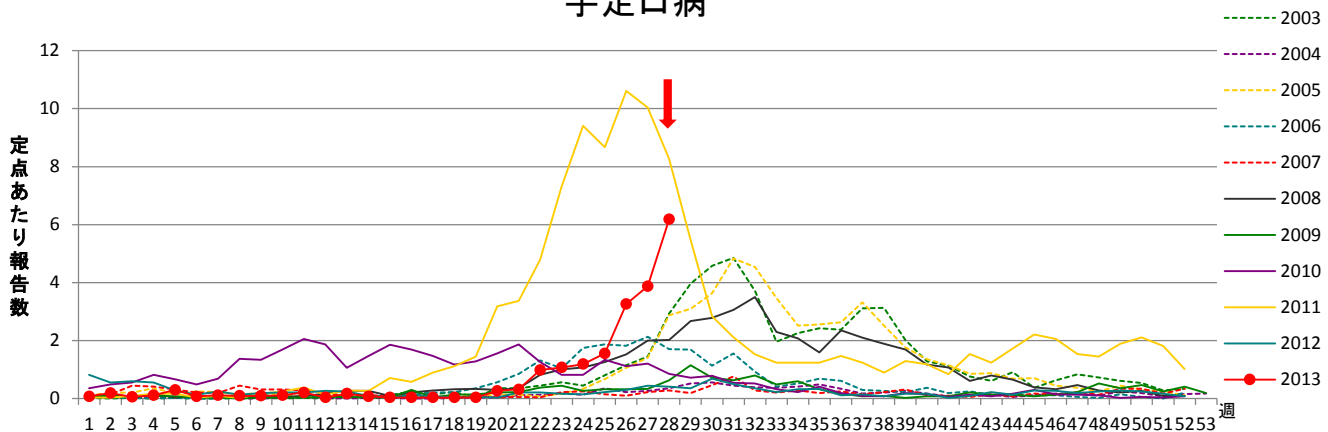
感染性胃腸炎



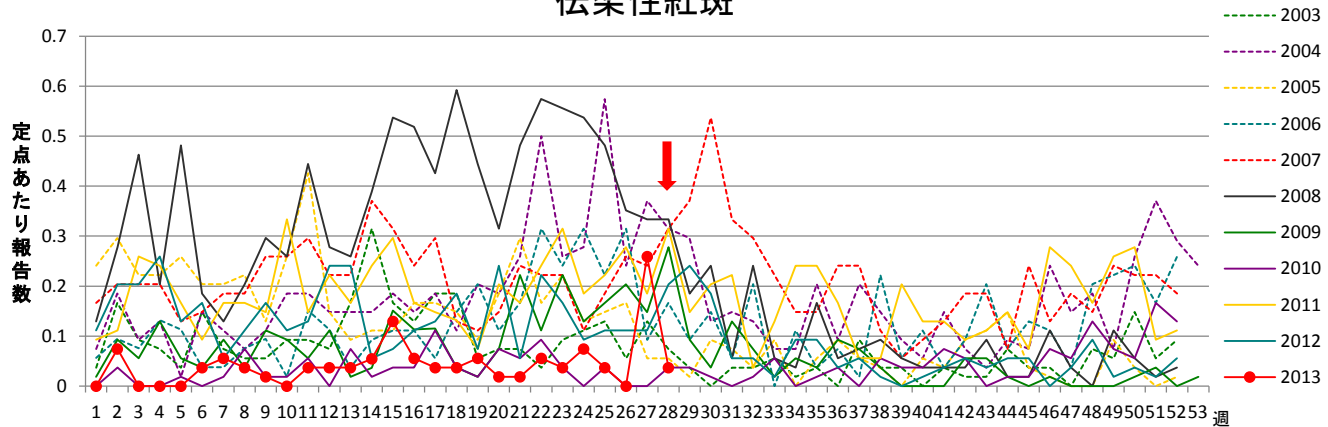
水痘



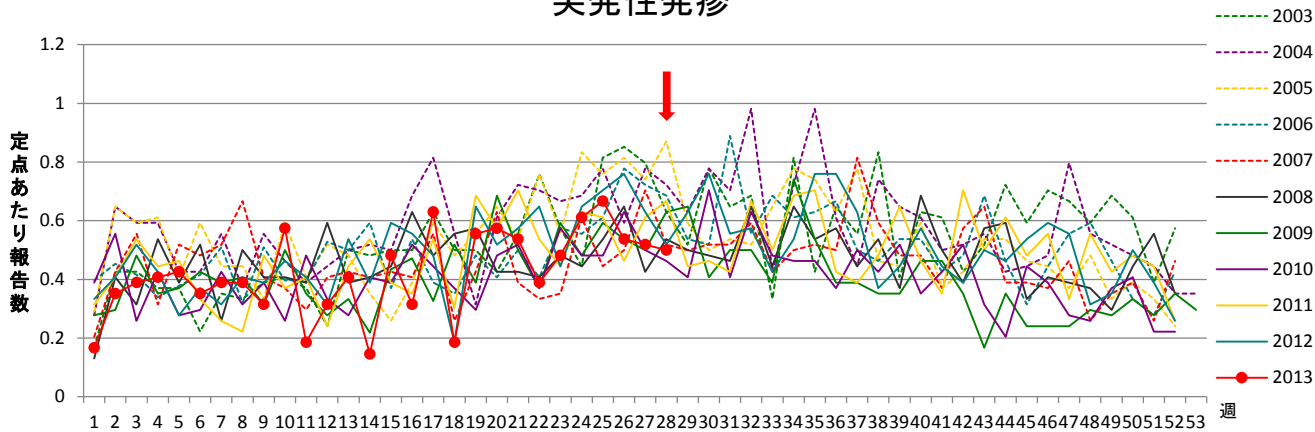
手足口病



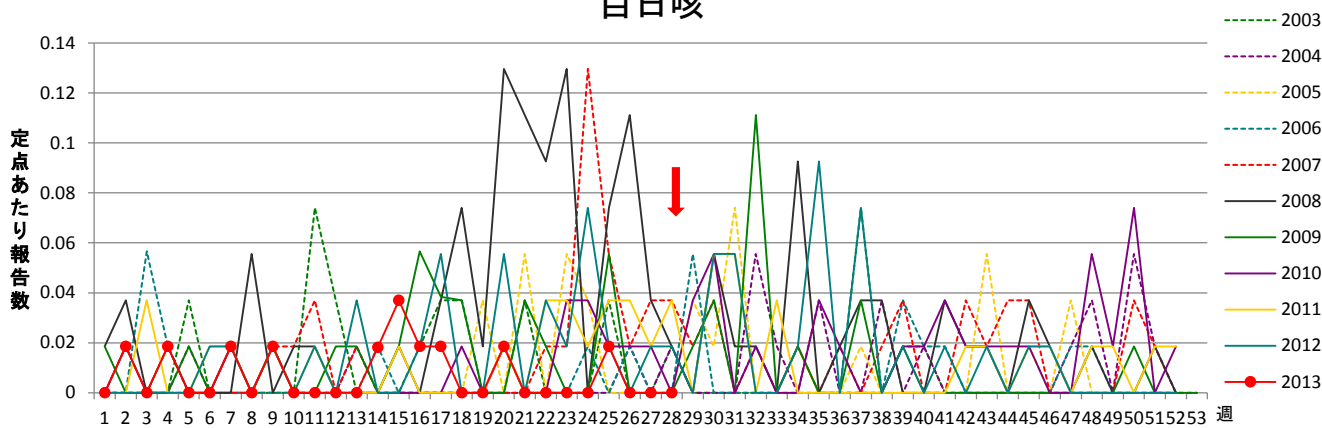
伝染性紅斑



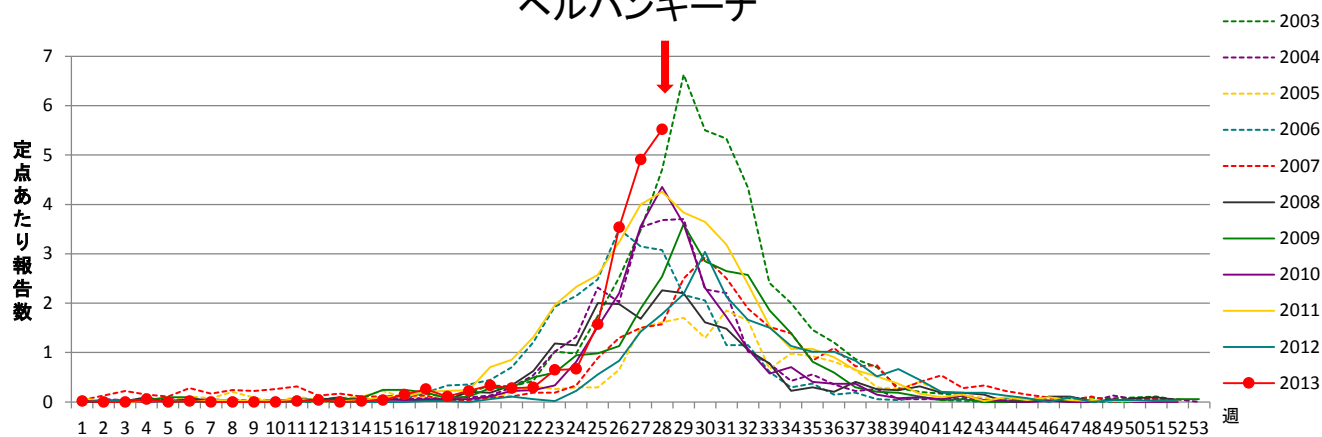
突発性発疹



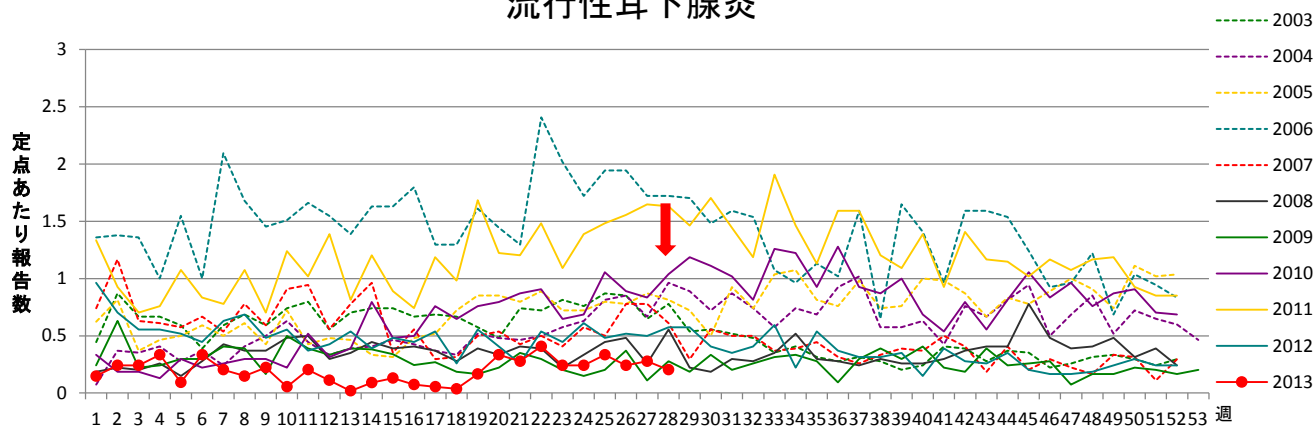
百日咳



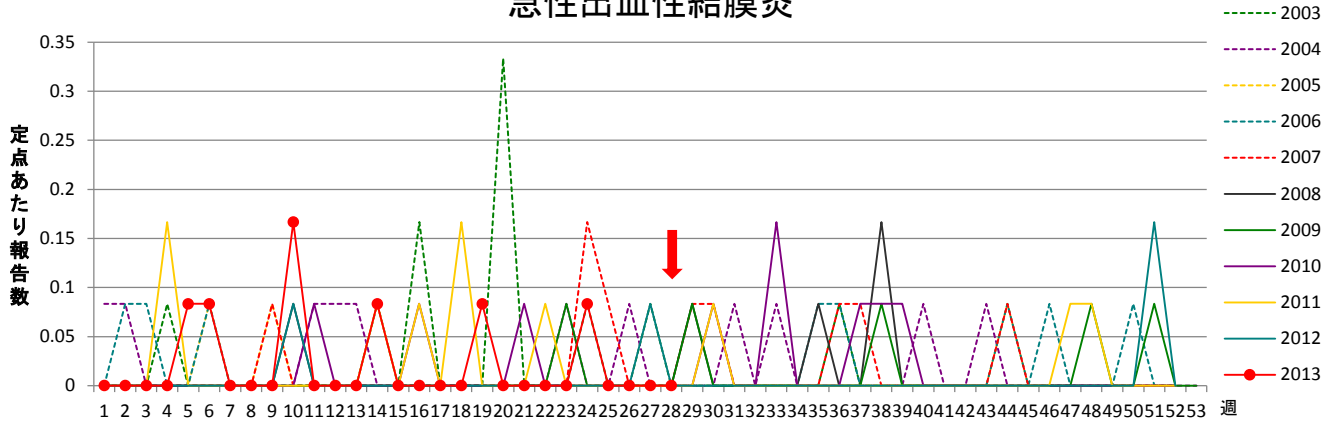
ヘルパンギーナ



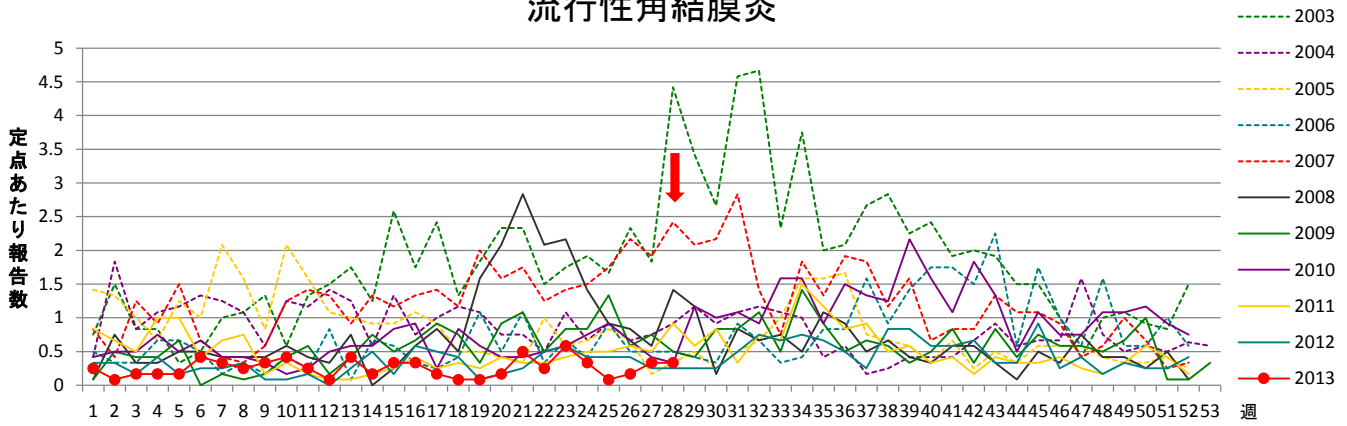
流行性耳下腺炎



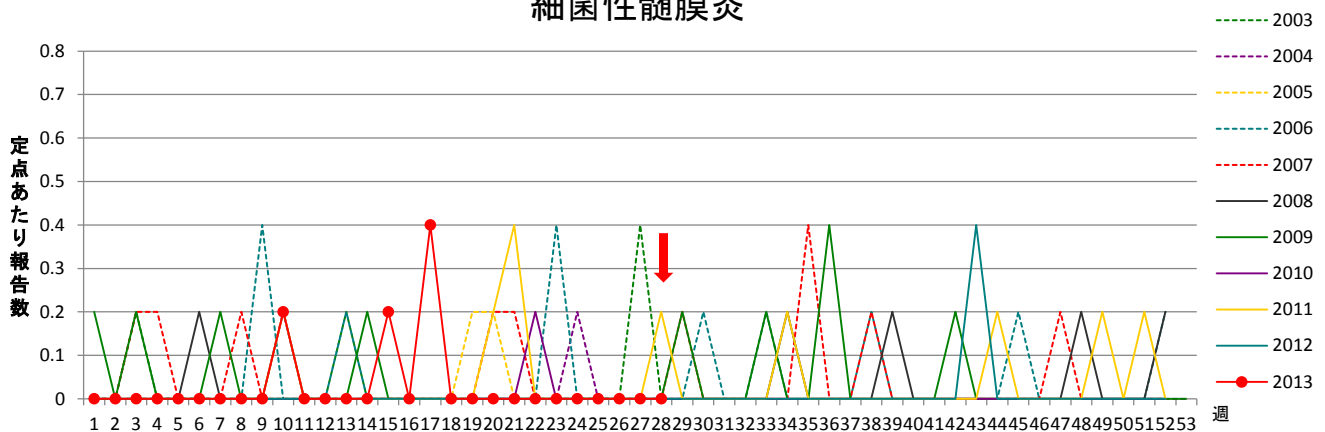
急性出血性結膜炎



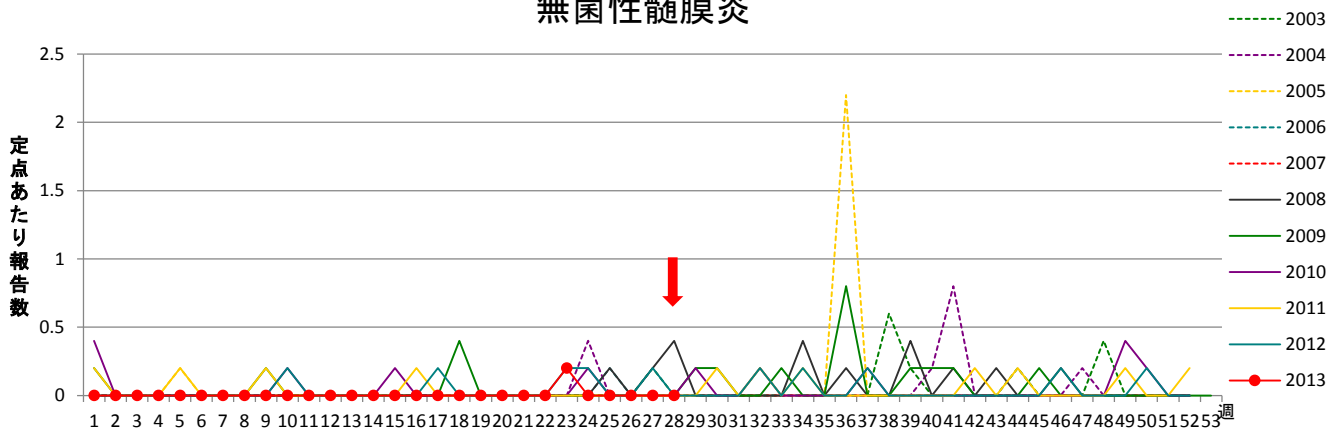
流行性角結膜炎



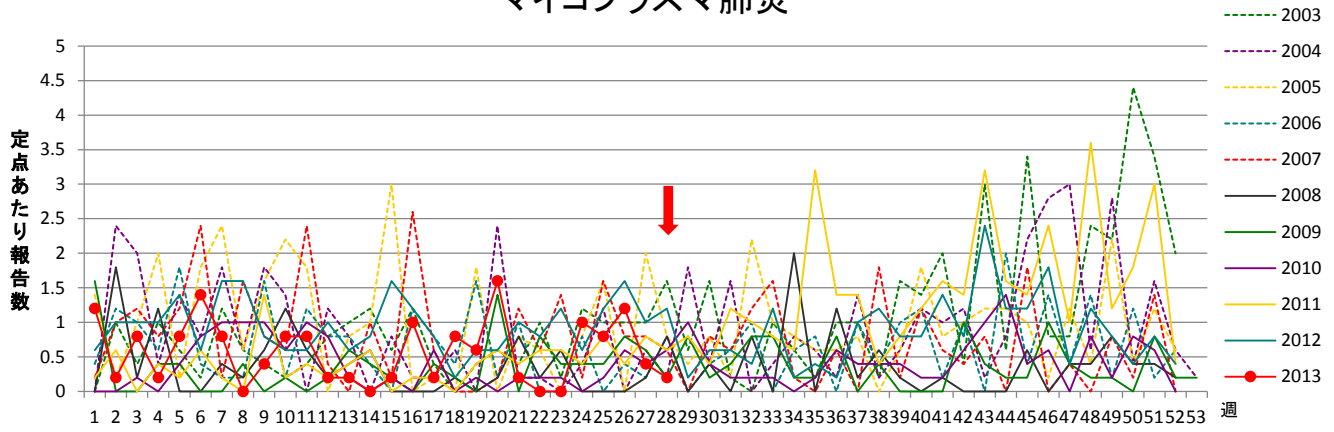
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

